

平成31年 山県市成人式

皆さん、夢はありますか？

夢を目標に変え、10年後の自分自身をイメージして、5年後にはどの様になっていなければならないのか。そのために、1年1年をどの様に過ごしていくのか。1日1日をどの様に努力していくのか。自分自身に自ら限界を定めるのではなく、高い厳しい目標を定め目標の実現に向かって挑戦して頂きたい。

それぞれの目標を実現し1回も2回も大きく成長した皆さんのお力が山県市を背負い、次の世代へと山県市を継承していく原動力となります。

時代が抱える課題を解決して、次の時代を切り開いていく希望となります。いつの時代も新たな時代を築いていくのは高い志を持つ若い世代の皆さんのお力です。



平成31年 山県市消防出初式



『行政の責任』と『地域の役割』

それぞれの立場でそれぞれの責任と役割を果たしていく。行政を預かる立場として『制度の創設』『体制の強化』に努めていきます。

消防団員の皆さんにはこれからも地域の役割として消防団活動に共に従事して頂きたい。これからも私たち消防団員が自らの犠牲を惜しまず崇高なる志を掲げ、山県市の安心・安全を守っていきましょう。ありませんか。

ここで改革の歩みを止めて 時計の針を過去に戻すのか。

それとも

これからも将来の山県市の為に 挑戦し続けていくのか。

時には市民の皆様にも共に汗を流して頂く。
時には市民の皆様にも共に責任を果たして頂く。

この様な響きの悪い訴えを続けていけばいつか私も議席を失う時がきます。

しかし

自らの保身の為に自らの信念を曲げるわけには参りません。

挑戦せずして、未来が開けますか。

活動
報告書
No.18

挑戦せずして、
未来が開けますか。

We have potentials

Potential
安心も自立も挑戦の先にある

岐阜県議会議員 Onda Yoshiyuki

恩田よしゆき

岐阜県議会議員 恩田よしゆき事務所
〒501-2104 岐阜県山県市東深瀬846-1
TEL0581-32-9597 FAX0581-32-9598

HP 恩田よしゆき 検索



岐阜県議会議員 恩田よしゆき後援会 討議資料 No.18

岐阜県議会定例会

一般質問

ソーシャル・インパクト・ボンドを活用した
健康づくり施策について

ソーシャル・インパクト・ボンドとは

ソーシャル・インパクト・ボンド

Social Impact Bondの頭文字を取りSIBと称されます。

社会的課題の解決のために民間の資金とノウハウを活用して実施する成果連動型の民間委託事業です。

官民連携の手法の一つで行政サービスをNPO法人や企業に委託し、民間の資金提供者から調達した資金を基に事業を行い、行政と委託された企業等が合意した成果を達成した場合のみ行政から企業等に成果報酬が支払われます。

海外では『ヘルスケア』や『就労支援』、『生活困窮者支援』などの事業が25カ国で実施されています。

民間の資金を活用する事により当初の歳出額を抑える事ができると同時に、事業終了後に成果に応じて対価を支払う事から、委託を受ける事業者にとっては、より成果創出のインセンティブが働き、高い成果を期待する事ができます。

今回の質問では『ヘルスケア領域』におけるSIBの導入について提案をさせて頂きました。

※ヘルスケア：健康の維持や増進のための行為や健康管理



《国の方針》

国では『未来投資戦略2018』において、SIBに関連する成果連動型民間委託契約方式の活用及び普及に向けた具体的な支援策や制度構築等の検討を進めています。

『骨太の方針』では社会的諸課題の解決に寄与する公益活動の資金源としてSIBにかかる制度構築を推進されています。

《国内でのSIB成功事例》

神戸市では糖尿病性腎症等重症化予防事業や八王子市における大腸がん検診・精密検査受診勧奨事業など本格的なヘルスケア領域でのSIBの本格着手が進んでいます。

糖尿病患者は国内で316万6,000人みえ、治療費は年間で1.5兆円が必要です。年間で1割近くの方が第4期腎不全期から第5期透析療養期に移行するとされ、移行により医療費は年間で1人あたり50万円から約500万円に増加し、発症前の状態に戻す事はできません。



Social Impact Bond

社会的課題を解決する新たな手法

神戸市では医療保険財政を圧迫する大きな要因の一つとなっている透析療養期への移行の阻止を目指しSIBを導入しました。特定健康検査の受診結果データから約3,000人の方々を抽出し受診勧奨及び健康指導プログラムへの参加案内をしました。

その結果、300人を越える方から応募がありました。その内、重症度の高い100人を優先して事業対象者とし9カ月間のサービスを実施しました。

健康プログラムでは腎機能低下や生活習慣病の重症化予防に関する目標を設定し、『食事療法』『運動療法』『セルフモニタリング』『薬物療法』の4分野で行動変容を促す事を目指しました。

成果指標としては『プログラム終了率』『生活習慣改善率』『腎機能低下抑制率』の3つを設定し、全ての指標で目標値を上回る結果となりました。神戸市では予想以上に高い数値で成果が出ており成果に応じて報酬が支払われました。

岐阜県でも糖尿病の重症化対策として『糖尿病腎症重症化予防プログラム』が実施され、その取組みに期待がされます。

糖尿病対策以外にもがん検診などヘルスケア領域における各種取組みを進めていくため、民間の資金とノウハウを活用するSIBの導入により、健康増進に繋がる事を期待して今回の質問をさせて頂きました。

質問

社会的課題の解決と行政コスト削減を同時に達成できる様に、SIBの仕組みを健康施策の推進のために導入し、民間の資金及びノウハウを活用して県民の健康増進、活力向上に活用してはと考えます。そこで、健康づくり施策へのソーシャル・インパクト・ボンドの導入について、健康福祉部長のご所見をお尋ねします。

答弁

健康福祉部長

ソーシャル・インパクト・ボンドの活用については、民間の資金やノウハウの導入により、行政の経費削減が見込まれることに加えて、成果に伴い報酬が多くなる仕組みであることから、高い効果に結びつくサービスの提供が期待されております。

現在、経済産業省や筑波大学などの支援により、3年から5年の実施期間で、複数の自治体において生活習慣の重症化予防やがん検診受診率向上、認知症予防などを目的とした先駆的な取組みがすすめられております。

今後、ソーシャル・インパクト・ボンドの取組みを調査しながら、この制度の導入による生活習慣の改善や疾病予防、医療費の適正化などの具体的な効果について検討してまいります。

SIB事業の流れ

